

東都生協平和のつどい 予告 ～だれもがピースメッセンジャー～

- 映像で振り返る～被爆・戦後80年の一年～
- 一般社団法人 東友会会員へ膝掛け(ピースニット)贈呈式
- 東都生協発行「戦争体験文集」の朗読(劇)
朗読のスペシャリストを講師にお迎えし、ワークショップを通じて、練習を重ね、心を込めて作り上げた組合員による朗読劇です。ぜひ会場でお聴きください。
講師：泉川真理さん(東都生協組合員、3R(サンアール)多喜二の会を主宰)
- みんなで歌おう!!

【日時】(開場 午後1時)
7月18日(土)午後1時30分～4時
【会場】
世田谷区立烏山区民会館ホール
世田谷区南烏山6-2-19(最寄り駅:京王線千歳烏山駅)
【前売りチケット申込期間】
5月18日～6月19日
【参加費】
おとな500円(当日700円) 子ども(18歳以下) 無料
【申込方法】
組合員活動情報紙「フォ」第439号、
東都生協ホームページをご覧ください。

りんご交流園ご支援のお願い

(有)山形南陽のんのん倶楽部が取り組む高密度植栽りんご園地の新設に向けたご支援をお願いします。新園地は、組合員と生産者との交流の場ともなる予定です。私たちの子や孫の世代にも国産の美味しいりんごを残すための基盤づくりを目指し、次世代の後継者募集・育成にもつなげます。



詳細は、6月2回(5月25日～6月1日配付)商品案内「Sanbonsugi」をご覧ください。

MESSAGE

(有)山形南陽のんのん倶楽部 代表 鈴木秀男さん



気候の変化や生産者の減少が進む中、次の世代にも国産の美味しいりんごを届けたい。その思いで、新しい園地づくりに挑戦します。食べる人と作る人が助け合い、共に育てる、本当の産直の夢を形にしたいと思います。

第52回 通常総代会 傍聴について

総代会は東都生協の最高議決機関です。総代選挙で選出された総代が議案を審議・決定します。総代ではない組合員も通常総代会の傍聴ができます。ご希望の方は電話でお申し込みください。

受付期間：5月11日(月)～22日(金)
申 込 先：総合企画室 総代会事務局
電 話：042-303-5007
開催日時：6月11日(木)午前10時
場 所：ハイアットリージェンシー 東京 地下1階



※傍聴募集人数は若干名となります。会場都合により傍聴の人数を制限する場合があります。

第51回 通常総代会の様子

理事会報告(抜粋)

2025年度第10回定例理事会(2026年2月19日開催)

- 審議事項
- 第52回通常総代会招集に関する決定事項確認の件
 - 第52回通常総代会想定議案確認の件
 - 役員選出制度における選任方式採用に関する件
 - 「総代通信」No.3(第52回通常総代会第2次議案書)確認の件
 - 2026年度組合員活動に関する確認事項の件 ●「東都生協福祉政策2035」確認の件
 - 商品委員会見直し検討委員会設置と委員選任の件
 - 産直委員会設置と産直委員会規程の制定および委員選任の件
 - 土づくり宣言21 エコプラン規程の廃止の件
 - 第52回通常総代会議案 定款の一部改正の件

- 報告事項
- 2026年1月度決算報告 ●各部署業務報告 ●組合員活動委員会報告
 - 商品活動関連報告

2025年度第11回定例理事会(2026年3月19日開催)

- 審議事項
- 2025年度末決算に向けた決算処理方法確認の件
 - 2026年度予算案および資金運用計画の確認の件
 - 第52回通常総代会役員(委員)などの指名確認の件 ●2026年度理事会設置委員会および委員派遣に関わる関係団体等確認の件
 - 2026年度基幹システム対応計画および関連費用支出の件

- 報告事項
- 2026年2月度決算報告 ●各部署業務報告 ●組合員活動委員会報告 ●商品活動関連報告
 - 「東都生協らしの助け合いの会 ほっとはんど」への2026年度助成金および理事会推薦幹事選出の件

<2月の私たち>

2026年2月20日現在 ※[]内は前年比

組合員数	263,055人	[100.3%]
加入	11,141人	[81.4%]
脱退	10,424人	[87.3%]

総事業高 30,984,361千円 [99.8%]

共同購入事業	29,697,608千円
弁当配食事業	355,881千円
生活文化事業	221,598千円
生活支援事業	70,678千円
その他事業	638,597千円

出資金 6,359,397千円 [97.3%]

1人当たりの出資金	24,175円	[97.0%]
1人当たりの利用高	6,694円	[104.7%]

今後の理事会日程(予定)

6月4日(木)、6月11日(木)、6月18日(木)

MOGMOGレポート

5 2026
月号

01 一お米について— 地域学習会

1月15日
とーとフレンズ 陽なたばっこ西荻

「令和の米騒動」はなぜ起こった? 今年の米の生産量・価格はどうか? 産直事業部の八重樫聡美職員を講師に迎えた学習会。複雑な流通ルートのこと、自然環境や社会情勢の変化に伴い、日常的に食していた米が入手困難になっていく可能性がある背景を学び、消費者として何が出来るかを考えました。

「価格が高いからと簡単に米離れに走っている?」「一度耕作放棄された田んぼは簡単に元には戻せない」といった意見も。講師からは「農家を守り、米作りを応援するためにも、ぜひ『約束米』の登録利用を」との提起がありました。

季節とともに稲穂が緑色から黄金色に変わる様はまさに日本の原風景。そして田んぼに息づく小さな命を守るためにも田んぼが果たす役割は重大です。

お茶碗一杯のご飯の価格は約50円。この値段高いですか? 安いですか?



02 今に残る貴重な 戦跡巨大地下壕 「松代大本営」に学ぶ

1月23日
組合員活動委員会

生活協同組合コープながのの組合員理事を講師に、戦争遺跡から学ぶオンライン企画を開催しました。

戦況悪化に伴い、本土決戦に備えて日本軍の最高司令部を東京から移転すべく極秘に建設されていた「松代大本営」地下壕(長野県長野市)。戦争指導部や天皇を中心とする体制を維持しようとした背景や、沖縄戦との関わりについて学びました。

公開されている写真を見ながら説明を受け、厳しい労働環境や劣悪な住居、栄養失調などにより、多くの犠牲者が出たこと、多数の朝鮮人労働者も徴用されたことを知りました。

講演後には参加者から質問や感想が多く寄せられ、「周りに伝えることで戦争への理解が深まる」との講師の言葉から、戦争の記憶を伝承していく大切さを感じる機会となりました。



講師と象山地下壕内部

03 組合員活動をサポートします! 小さなお子さん、お預かりします!

2月3日
イクサボ研修登録会

1986年から始まった「保育ママ」制度が「イクサボ」と名称が変わり、2026年度の活動に向けた登録会&保育研修が計4回(立川市女性総合センター・としま区民センター・さんぼんすぎセンター・オンライン)開催されました。

2月3日に行われた、としま区民センターでの研修・登録会は7人が参加。動画を見ながら「イクサボハンドブック」で活動の仕方や、保育上の注意点を確認しました。分散会では、これまでの経験を共有し、より良い活動にするための意見を出し合いました。

最後はみんなで手遊びをして、保育中にお子さんの気分を変えたり、楽しませたり役に立つ講習を受けました。



イクサボに貸与するエプロンは小平市の共同作業所「サングリーン」で作られています

Pick up

「産直の未来」について考えるワークショップ

開催日：第1回 2025年11月8日、第2回 2025年12月20日、第3回 2026年2月24日

「産直(産地直結)の東都生協として目指すべき姿とは? そこに向かうために必要なこと、求められる変化を考える」をテーマとして、組合員理事と職員が一堂に会し、全3回のワークショップが開催されました。第1回、2回の様子を報告します。

第1回目 (有)どさんこ農産センター・二川英司さんより、「産直の歴史と未来を語る」と題したオンライン講演がありました。「生協との取引にはさまざまな制約があり、新規就農者に魅力を感じてもらおうことが、年々難しくなっている」といった産直が直面している課題が率直に語られました。



グループワークの様子

その後グループに分かれ「産直の魅力とは」私たちが誇れる「産直の東都生協」にするために、私たちが出来ること」のテーマで話し合いました。



二川英司さん

●グループから出たアイデア

「お気に入りの産地を応援するグループを作るのはどうか」「子育て世代の食育になるような交流企画があるとよい」

第2回目 JAやさとの生産者の皆さんから「皮ごと丸ごと やさとの有機野菜セット」企画の現状と「有機栽培への思い」「農福連携の取り組み」の報告がありました。グループ交流では「若手生産者に生協産直の魅力を知ってもらうには?」「組合員に農業を身近に感じてもらうには?」のテーマでアイデアを出し合いました。



やさと菜苑(株) 前島さんと交流



農福連携での試作ジャム!

●グループから出たアイデア

「農作業とレジャーを組み合わせた交流が面白いのでは」「Instagramで農家のリアルな状況をお伝えできないか」